

ふる里再発見 ～太伯学区～

太伯ふる里学習研究グループ（代表者：堀田 裕子）

● 研究の目的 ●

太伯学区は、古くから開けた土地であり、神社、仏閣を始めとして、宇喜多直家出世の足掛かりとなった乙子城址、乙子常夜灯、そして、江戸時代の幸島干拓の新田開発に伴う遺跡や備前大用水などの歴史遺産が多く点在している。また、市指定伝統郷土芸能「邑久郷シャギリ」に代表される文化遺産、絶滅危惧種の棲息が確認されている永江川河口湿地などの自然遺産にも恵まれている。

しかし、近年、家庭や地域の教育力の低下により、地域のことを語り継ぐ活動が廃れ、地域のことを知らない保護者や子どもが増え、自分のふる里への愛着や帰属意識が育っていない現状が見られる。そのことを危惧する声が地域の方からもあがっており、平成21年度から「太伯ふる里学習」として、地域の歴史や自然に詳しい方をゲストティーチャーとして講師にお招きし、学区の歴史遺産を調べパンフレットにまとめる「歴史探検学習」や、学区の自然や環境について調べる「環境学習」などを始めた。

平成22年度は、より多くの地域住民の協力を得て、「ふる里学習」の幅を広げるとともに、学校と地域、PTAの協働により、子どもたちが調べたことを「ふる里マップ」にまとめる活動を取り入れることにした。そして、出来上がった「ふる里マップ」を学区内へ配布することで、太伯学区の素晴らしさを子どもたちはもとより、家庭や地域にも再発見してもらい、地域を愛する心の育成につなげたいと考えた。

● 研究の経過 ●

福武教育文化振興財団からの教育研究助成の決定を受け、組織づくりや5、6年生の活動計画（総合的な学習の時間の計画）検討などを具体的に進めていった。

1 学校・家庭・地域協働の組織づくりと作成委員会の経過

太伯学区連合町内会長やPTA会長、地域協働学校運営協議会の方々、太伯学区の歴史に詳しい方、伝統芸能関係者、学校職員などで構成する「ふる里マップ作成委員会」を立ち上げた。

(1) 作成委員会会議の内容・経過

第1回作成委員会（5月）

ふる里マップ作成の趣旨説明、及び編集方針（形式）や掲載する内容、印刷部数、今後の予定、役割分担などを決定した。

第2回作成委員会（10月）

児童が調べた内容をもとに作成した説明文の検討、レイアウトの検討、児童が調べていない所では是非、マップに盛り込みたい内容、写真などの検討を行い、マップの原型を作成した。

第3回作成委員会（12月）

印刷所から届いたゲラ刷りをもとに説明文の手直しや写真・絵などの大きさ、背景の色などについて校正を実施するとともに、印刷部数の再確認や配布計画などについて検討した。

平成23年1月、マップが完成した。

2 5、6年生のふる里学習

(1) 学区の生き物調査と永江川河口湿地の調査（5年生）

1学期には、岡山淡水魚研究会の田中さんを講師にお招きして学区内の備前大用水や用水に棲息している生き物調査を実施した。続けて、学区内にある永江川河口湿地の生き物の研究をしておられる森さんを講師にお招きし、永江川河口湿地の生き物調査を実施した。



ふる里マップ発表会で永江川河口湿地の生き物を発表する5年生

2学期になって、生き物とごみとの関係を調査し、永江川河口湿地でごみの回収作業を実施した。そして、調べたことや分かったことを中心にまとめたことをマップの中に盛り込んだ。(2学期)

3学期には、調べたことをふる里マップ完成記念発表会で発表した。また、グループで新聞の形にまとめ、発行した。

(2) 学区歴史探検学習(6年生)

1学期には、学区内にお住まいの高原さんを講師にお招きし、3回に分けて学区内の歴史遺産の調査をした。調査した箇所は役割分担して、グループでまとめをした。まとめた文書と写真をマップ作成委員会に提供し、神社や仏閣の説明文に活用した。

2, 3学期には、一人一人が調べたことをガイドマップにまとめるとともに、ふる里マップ完成記念発表会で発表した。



学区歴史探検
乙子神社で高原さんの説明を聞いてメモする
6年生

● 研究の成果 ●

ふる里マップが完成した後、早速、学区ではふる里マップを活用した「太伯学区ウォークラリー」が開催された。子どもから高齢者まで老若男女約130名の参加者があり、地域の人々の交流ができた。また、学区内の全戸及び、小学校・幼稚園児の家庭にもマップを配布した。地域の方からは、「学区内にこんな所があるのをマップを見て初めて知った。太伯って素晴らしい所なんだね。」という声が聞かれ、早速マップ効果が表れたのを感じた。

マップの完成を記念して、2月23日には、「ふる里マップ完成記念発表会」を4, 5, 6年生の参加のもと小学校体育館で開催した。当日は、5, 6年生児童が調べたことや感想を一人ずつ、画像を映しながら自分の言葉で発表した。多くの子どもたちが、「自分たちが住んでいる太伯学区にこんな素晴らしい所があるのをみんなに知ってもらいたい。」とか、「自然を保護して素晴らしい環境を守っていかなければならない。」など、自分たちの住んでいる地域を誇りに思い、愛する気持ちが表れた感想を述べていたのが、嬉しかった。発表会には、大勢の保護者の方々や地域の方、山南地区の他校の先生の参加もあり、子どもたちにとっては大勢の前で発表するいい機会でもあったし、自信にもつながったと思う。

また、このマップ作りを通して、地域の方々と子どもたちとの距離がぐんと近づき、学校・家庭・地域が協働して子どもを育てる環境づくりに一役買えたことも成果と言える。

● 今後の課題 ●

マップ作りは今年度で終了したが、「ふる里学習」は継続していかなければならない。今年度作成したマップを活用して、次年度からは、マップに載っていない事柄についても、より深く調べてマップを補完していくことが大切だと考えている。地域の高齢者の方にお話を伺うと、次々めずらしいエピソードが出てくる。太伯学区には、まだまだ知られていない事柄が眠っているので、発掘していきたい。また、学区のことを調べる活動は、小学校教育のなかでしかできない。今後は、5, 6年生に限らず、1~4年生にも幅を広げ、地域人材をしっかりと活用して、ふる里学習をすすめていきたいと考えている。

(執筆者: 堀田裕子)

<共同研究者>

- 太伯連合町内会 生内昭泰、太伯保・幼・小運営協議会 近藤博文、高原知明、根木一江、
- 邑久郷シャギリ保存会 山崎壽、元岡山市教育委員会文化財課 根木修、太伯PTA 山崎秀忠、岡崎佳子、
- 太伯小元職員 根木直子、岡山の自然を守る会会員 森千恵
- 太伯小職員 堀田裕子、中島朗、土井基彰、山崎博之、森垣真由美

太伯小学校(岡山市東区神崎町)と住民有志が、地域の魅力を再発見してもらおうと、学区の歴史や自然などを紹介した古里マップ「わがまち わがふる里 太伯」を作った。同小児童が授業で調べた成果が生かされており、学区内の全約1000戸に配った。(平松隆)

古里マップできたよ

太伯小児童と住民有志作製

マップは「(八)折カラ 戦国時・宇野直家ゆいで、錦4枚、横5枚。かりの乙子城跡(同乙子)」

太伯小児童の学習の成果を生かして作った古里マップ

学習成果活用 歴史や自然紹介

子、1874(明治7)年築造で真近代化遺産の高さ・8のふる里マップ作成委員(常夜灯(同所)など)会(14人)を昨年春18万所の歴史・文化に届け、福武教育文化自然遺産を写真やイラスト、振興財団の助成を受け、文書で紹介して、約10カ月かけて作

このうち子大明神(同所)、成願寺(同所)、紅井寺跡(同所)など、5年31人が総合学習のは、マップには自分た

時に調べた内容を基に記述。探検者の「たくさん載っけてい

本の重要箇所500・白くった。8年根木に選ばれている永江川 歩さん12は「地城

河口湿地(同乙子)の人に使ってもらい、5年37人が体験学習で、太伯学区にもっと詳しく取り組ん生き物調査くくってほしい」と話の結果を盛り込んだ。している。

別、東区役所、西大寺(同所)、西大寺(同所)など、5年31人が総合学習のは、マップには自分た

時に調べた内容を基に記述。探検者の「たくさん載っけてい

本の重要箇所500・白くった。8年根木に選ばれている永江川 歩さん12は「地城

河口湿地(同乙子)の人に使ってもらい、5年37人が体験学習で、太伯学区にもっと詳しく取り組ん生き物調査くくってほしい」と話の結果を盛り込んだ。している。

平成23年2月18日 山陽新聞より